

【目的】慢性疾患を有する高齢患者の療養環境を構成する人間関係に焦点を当て、高齢患者が在宅での療養を選択しそれを継続していく過程に係わる要因を、主介護者・キーパーソン（在宅療養の方向を指揮する者）・高齢患者の相互関係から探る。そこから患者と家族の双方にとって望ましい在宅療養生活を送るには何が必要とされるかを検討した。

【方法】東京都心部のA病院を退院し同病院の訪問診療および訪問看護を受けている慢性疾患を持つ65歳以上の高齢患者24名とその家族を対象に面接聞き取り調査を行った。

【結果】高齢患者とその家族が在宅療養を選択し、それを継続可能にしている方法には種々の形があることが分かった。そのなかに次の共通点が見られた。①在宅療養開始・継続決定には高齢患者自身の介護を受けようとする意識と主介護者の介護をしようとする意識の両方ないし少なくとも片方が必要である。②在宅療養開始・継続が可能になったのは高齢患者・主介護者それぞれの個人的資源や社会的資源を活用・確保することができたからである。③高齢患者・主介護者に対する医療機関のサポートの効果は大きい。④在宅療養開始・継続には高齢患者、主介護者、キーパーソンの相互の勢力関係が関わっていた。⑤在宅療養開始・継続には三者間の関係性のバランスが保たれていた。本研究では在宅療養を家族のダイナミックスとして捉えるために、在宅療養現場における家族（各当事者）の力動のメカニズムを構造モデルで説明した。この構造メカニズムで在宅療養の実施要因を説明すると、在宅療養の現場では当事者間の力動の平衡関係を保てるような状況を作っていくことが個々の在宅療養を実施していくうえでの条件であることが明らかになった。